追悼文

猪股俊司先生への追悼の辞

池　田　尚　治*

我が国の PC 技術の第一人者であり，我が国の PC 発展に最初から寄与されてこられた猪股俊司先生が，平成 2 年 8 月 19 日に御逝去された。我々後進の者にとって掛替えのない偉大な指導者であられただけに，ただ茫然とするばかりである。御生前の御活躍と御貢献ならびに我々に賜った御指導に対し，改めて厚く御礼を申し上げるとともに謹んで御冥福をお祈りする次第である。

猪股先生は大正 7 年に新潟県両津氏でお生まれになり，昭和 16 年東京帝国大学工学部土木工学科を御卒業後，日本国有鉄道技術研究所に入所された。そこでコンクリート構造の御研究に専念され，昭和 27 年には，我が国 PC 技術の発展のために極東鋼弦コンクリート振興株式会社の設計部長として転出され，PC 一筋に専念努力されることとなったのである。翌年にはフランスに留学されて技術の研鑽を積まれ，翌昭和 29 年には土木学会賞を受賞された。昭和 33 年には東京大学より工学博士の学位を授与され，また昭和 35 年には技術士の資格を取得された。

昭和 37 年には株式会社日本構造橋梁研究所の創立とともに取締役設計部長として入社され，常務取締役，取締役副社長および代表取締役会長を歴任され，我が国の主要な PC 工事および国外の PC プロジェクトについて指導されてこられた。また，多くの大学で PC に関する講義を担当されるとともに，愛知工業大学教授として若き後進の指導にあたられた。

昭和 49 年には国際的に栄誉ある FIP メダルを受賞されるとともに，昭和 61 年には PC 界の最高の栄誉である FIP のフレシネーメダルを受賞され，また藍綬褒章を受章された。

当プレストレストコンクリート技術協会においては，理事，副会長，会長を歴任され，協会の発展と PC 技術の発展に御尽力された。また，当協会誌の編集委員長として今日の会誌の礎えを築かれた。当協会に対する猪股先生の御献身は計り知れない違大なものである。

当協会が加わっている FIP では，猪股先生は日本の代表兼 FIP 副会長として御活躍され，国際交流に努められた。

筆者がはじめて猪股先生にお目に掛かったのは，まだ筆者が大学院修士課程の学生の頃で，昭和 36 年改訂版の土木学会の PC 設計施工指針の改訂作業の集中審議を箱根の旅館で行ったときのことである。会議の末席から猪股先生の PC の御高説を拝聴できたのは大変な喜びであった。

筆者が首都高速道路公団に就職してからは，職員の技術研修を猪股先生にお願いし，当時最新の情報であった限界状態設計法について詳細に御講義を賜った。

猪股先生とは，その後は土木学会のコンクリートに関する委員会でしばしば御一緒させていただき，いつも明解な御発言に舌を巻くばかりであった。

当協会の理事会では，会誌の編集に関し全く自由に任せていただき，時には原稿の執筆をお願いしたりもした。

* Shoji IKEDA：横浜国立大学工学部教授

猪股先生は昭和 32 年に初版となった 840 頁にも及ぶ大著「プレストレストコンクリートの設計および施工」の著者として筆者は学生時代からその御高名を存じ上げ，その御著書を座右の書とさせていただいてきた。そこで，筆者がたまたま土木学会の論文集編集委員会の第5部門の担当のとき，論文集が部門ごとの分冊となり，その中に招待論文を載せることが決定されたので，筆者はコンクリート関係の最初の招待論文として是非猪股先生に御執筆をと思いお願いしたところ快諾され，パーシャルプレストレスに関する貴重な玉稿を第5部門の第1号に賜ることができた。誠に有難いことだと感謝した次第であった。

猪股先生には，つい数か月前までプレテンション PC げたの JIS 改正の原案作成について，御指導をいただいており，その委員会の席の雑談で，今年の FIP ハンブルグ大会に出す日本のナショナルレポート (Prestressed Concrete in Japan 1990) の出来栄えについておほめの言葉をいただいたり，また，今年 10 月の金沢での PC の発展に関するシンポジウムでの特別講演をお願いしたりしたばかりのことであった。FIP のハンブルグ大会へは筆者のツアーに奥様と御一緒に御同行賜るなど，昨日のことのように眼に浮かび思い出は尽きない。

猪股先生の華々しい御活躍と顕著な御貢献とを思うとき，これは先生の人間としての類いない立派さと人間性豊かな御人格に加えて大変な御努力によっていることを認識し，これからも先生の御遺志を大切に継いでいきたいものである。

猪股先生，長い間ありがとうございました。先生は，いつも我々の心の中に居られます。先生がレールを敷かれた 1993 年の FIP の京都での国際シンポジウムも，我々の心の中の先生に御指導を受けながら参加させていただきます。

Allüberall und ewig blauen Licht die Fernen

さようなら